

東日本大震災で被災された方々に、心からのお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、被災地の復興を心よりお祈り申し上げます。

大地震と津波による被害、度重なる余震、それに福島第一原子力発電所の事故がかさなり、今、私たちは復興の道筋さえ描けないような未曾有の被災状況に直面しています。日々、刻々と変わる被災状況や避難所での不自由な生活に耐える被災地の方々の状況などを伝えるテレビや新聞に接しているうちに、いつの間にか4月からの新しい年度を迎えていました。被災地から遠く離れてはいるものの、愛知県美術館でもその活動に少なからぬ影響が出始めています。そのようななかで、美術館として被災を受けられた方々に何ができるのか、あるいはこのような時期だからこそできることは何かと自問しながら、この数週間を過ごしてきました。

本年度第1回目の企画展として4月29日から麻生三郎展を開催します。戦前から戦後にかけて、時代や社会の変化のなかで人間そのものを見つめ、その本質を追究し続けたこの画家の作品は、今の時期だからこそ私たちに深く問いかけ、語りかけてくるものがあるように思います。是非、ご来場いただきたく存じます。また、この企画展にあわせて開催する所蔵作品展では、この度の大震災で被災された方々に思いをよせ、その心情に寄り添わせていただくことを願って、ささやかな展示を準備しています。ぜひ、一人でも多くの皆様にご覧いただきたく思っています。



↑ 所蔵作品展示室にて。

この度の大震災では、多くの文化財や美術品も被災しました。文化財や美術品は、地域社会に生きる人々の心よりどころとしての役割をもっています。被災地が本当の意味で復興をなしえるには、その地域にとってかけがえのない文化財や美術品が救出され、必要な処置を施されて、再びその地に戻されて人々の心と生活のなかに息づいていくことが欠かせません。それらを救出する活動が文化庁を中心に始まっています。当館でも、この救出活動に学芸員も派遣するなど、少しでも貢献できるようにしていきたいと思っています。また、被災した文化財や美術品を救うための募金もお願いしたいと思っております。皆様のご援助をお願いします。

新年度は、日本が未曾有の困難な状況に直面したなかで始まりました。今の時期だからこそ、私たち美術館が社会のなかで何ができるのか、美術作品を皆さんにご覧いただくことを通じてどのような貢献ができるのか。そのようなことを問いながら、活動を続けていきたいと思っています。そして何よりも、県民の皆様にも良質の美術作品をご紹介することを通じて、心休まる平穏な時間をお持ちいただけるよう努力していきたいと存じます。

2011 年度を迎え、館長以下新しい体制で、心新たに頑張っていきたいと思っております。これまでも増して、皆様に親しんでいただける美術館になっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

愛知県美術館長 村田真宏